

子宮頸がんワクチンに関する情報の視認性向上の研究

山田 洋乃

子宮頸がんに対して予防効果のあるワクチンは、副反応の被害が問題となり、接種の推奨が中止されている。ワクチンを接種するかどうかは、情報を収集し自ら判断することになるが、接種対象者が信頼性のある情報を入手できているとは限らない。

本研究は、医学に関する専門知識に乏しい一般の人が子宮頸がんワクチンについて理解し、主体的にワクチン接種の意思決定ができるようにするために、判断材料となる情報の視認性を高めることを目的とし、その方法を提案する。

はじめに、子宮頸がんと子宮頸がんワクチンについての基本的な情報を診療ガイドラインと添付文書から収集した。また、子宮頸がんおよびワクチンに関する Web サイトを検索エンジンを用いて収集し、その信頼性評価結果および入手可能な情報にもとづいて、情報提供に使用する Web サイトを決定した。Web サイトの信頼性を評価するために、eヘルス倫理コードを利用して信頼性評価項目表を作成した。この項目表を用いて Web サイトを評価した結果、収集した 55 件のうち 8 件の Web サイトが信頼性があると判断できた。

本研究では、この評価結果を考慮し、診療ガイドライン・ワクチンの添付文書・厚生労働省・国立がん研究センター・国際医学情報センター・全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会を情報源として使用することにした。さらに、収集した情報と情報源を使用して、一般人を対象とした子宮頸がんと子宮頸がんワクチンに関する情報の提供方法を検討した。

選択した情報源を用いて入手可能な情報を「子宮頸がん」「子宮頸がんワクチン」「ワクチン接種後の健康被害」の 3 つの項目に整理した。選択肢として表示される情報の中から、知りたい内容を選択して、解説と情報の所在を得ることができる。また、「資料集」をつくり、情報源ごとに情報を入手することができる。さらに、より広く情報を収集したい人のために「検索して資料を探す」をつくり、文献を検索できるデータベースと検索方法を知ることができる。すべての情報提供において、リンク切れや最新情報へのアクセスの困難などに対応するために、利用者が検索エンジンを用いて探す方法を提供した。

本研究により、情報源の信頼性にばらつきがあり、得られる情報の全体像が明らかではないという問題を、信頼性評価および入手可能な情報の調査の結果に基づいて情報源を選択することによって解決することができた。また、入手可能な情報を項目別に選択肢として示すことにより、情報の視認性を向上させることができた。さらに、情報の検索方法を紹介することによって利用者自身が主体的に知りたい情報を検索できるようになった。ワクチン接種におけるベネフィットに加え、リスクや救済措置についての情報を提供することにより、意思決定を支援することができる。作成した Web サイトの更新方法を検討し、利用者による評価実験を行うことにより、Web サイトの完成度を高めることができる。

(指導教員 岩澤まり子)